

留学生相談室利用状況

八重澤 美知子

平成4年度の留学生相談件数は表に示す通りであり、金沢大学とはほぼ同じ数の留学生を受け入れている他大学と直接比較対照出来るデータを持っていないものの、良く利用されていることがわかる。相談内容も主として奨学金に関する事柄やアルバイトをはじめとする「経済的な問題」、授業が難しい・実験がうまく行かない・日本語・学位の習得等に関する「修学・学業の問題」、アレルギー・夜眠れない・頭痛・微熱等の「健康上の問題」、留学生に対する日本人の態度・留学生同士あるいは研究室内の人間関係などの「対人関係の問題」、食事に関する制限や日本の習慣であるお歳暮等についての「文化の問題」、そして「住居に関する問題」など多岐に渡っている。その他「母国の政情が心配」「(同行した)子供の教育をどうするか」「留学終了後の進路」などの相談があった。

相談の主訴としては具体的な問題をあげて来るが、その根底にはカルチャーショック・不適應の問題が潜んでいる場合もあり、注意を要する点である。また相談内容が複数の問題を含んでいる場合も多く、多方面からのサポートが求められる。さらに、留学生相談が開始されてから日も浅く、また留学生たちの来日・帰国という移動もあり、留学生理解に関する準拠枠の設定が難しいために、相談内容の「文化差」「世代差」「個人差」の3側面には、特に配慮して面接に臨む必要があろう。

表 平成4年度留学生相談室利用状況

相談性別 月	留学生相談		留学生電話相談		留学生に関して日本人からの相談	
	男性	女性	男性	女性	面接	電話相談
1992年 4月	17	1	1	0	5	2
5	16	3	0	3	6	1
6	29	2	0	0	4	4
7	22	2	0	0	2	1
8	32	0	1	0	4	0
9	13	2	1	0	0	2
10	27	2	0	0	0	1
11	23	3	0	0	0	1
12	27	1	1	0	0	1
1993年 1月	32	3	1	0	1	0
2	18	1	3	0	0	1
3	13	5	4	0	2	1
小計	269	25	12	3	24	15
計	294 件		15 件		39 件	